



古者教

特別
~13
4176



持
八三
4176



長老教

ひうーうまだやあを登
い川そやとそ三人のち
老ありそのことふりー
あきまらんる乃おりー
まーいがかまたや長老
のふハゆきかかてめて
たははあううとほおや
とこらのゆだり給へる
うあうれをえんてうら
かゝとたうのそとかい



て縁とくくどとりのせ
なよむすなぐらみりひ
まゝ海へかゝと中けき
をちやうーわうさへて
いまゝかゝこまえどひ
たまふ抱うぬ初んらい
む一りちせんせんのだ
ろくをあゝ志せんのお
やうをあゝえくく造う
乃造をくけいあ造とを
さゝあよむまあう乃不

とけいなるゝあとも人を
い。たも身子ないとのこ
とゝす急に所ゆめと乃
あ門くとなれをらゝき
しりらゝきみちりり入
ふ海ひさふらふる目
くゝどちゝく北やう小
いとそまゝゝあ小造あて
たりゝまゝゝ作人目れよ
聖も目くゝゝやあひ
うらあ造あ造事ゝ別造あ

あう大ちやうしわまて
海一守としておくので
いハ ちやうしわまて
た極くすんれまのぐこ
里ふ終ひけらうらり
小長しわれ山とてわり
たをへむひえれ山と二十
らうらり。うら終あけうら
りてよてるりいあくる
乃あうしふをとお大海
あうらり川を百むうり合

てせのちやうしわまて
のたけらうがあうしわまて
とわと里てりの山代あ
かり人すくうらうれ。う
終とわりうらうらうら
い終終のせいかり一
里んもくたせして長老
ふありたきとおまへて
なむたまふまのありま
きしやを終んらき大
二うらり三たむま

を舟子よりの一日に合
れらんよひとらんせん
くうて二合半とたりの
百十七日一八日計三
本又合ありあれを一日
里ふし七加付さうて二連
よりき又合ともよひひ
にし七本ふは計二本又
合乃こめ三孫ん乃肉小
一太とあれ里び一太よ
里い三りりをとらと八三

十孫ん中後又百太一
わまるびわまりせん徳
るりまはくひてりの又
百太小又こ利とわらん
て好くふ右よわまよ曲
あれよりそい三といは
とめく家事しるかあ
み川月目乃じくくまで
ちうやとふこが事一
さ一一二をうけ二三と
うくみせん所ありて山

とあり一朽くのも悪と
ありト承流士となめる
なり孫がふとしてあや
志ゆせぬとりお東一
一まとくはまじあひ
ち百おくと孫ん一が
切る里すき十おくとあ
里と毛松ころあぶ一
とありおとむ紀大のこ
くくのいしくなり
あむ口のい里をさす

まがはまうらうととい
へどもうるを出るはま
ゆるりなりがすその
ゆへハ流孫ふあまたい
残尺いせつりおひ
あさ二合五夕ゆふさうり
三合五夕づくししまつ
して穴こをばこめ一
月一計五本あり一
里一七三年一水一十
石八計六半一あまうま

おはくふゆへは徳のた
くらへへ不志く初しきぬ
しよくのみりも十せん
まきてやましく一せんま
りくめぐり又くはま
ま事しあありこりりま
まをばうんあんす
まのまらまときまおま
まあし多事しりてくあ
まのありは縁にま乃程
まありてわりくらひよ

まあこのまをぬすし
ま一残すはまはまをま
まらうさかひあしま
ますまとしてま人のま
見えうけねやうりし
まおけをゆひうせる
まことしあまうまむま
まましく子とりあ物し
ままの也人あたしきん
まくままうしそまらま
ままひうまらたまへひ

んおひまきそを根子一
くえ目のうら不りりつ
事ハふんぬの也あめ
うんハくじやうとんぬ
アサ造ともらくす
ひそいきまやうそひん
お抑くるるきなり

ゆ絲おたり子そのま
才一 ふんハ流のる
才二 あうときりす
ふん事

才三 のんおんまづき

才四 ひとまぬとん大

ハせうそくはぬ
るきり

才五 あうそきをやめ

いまんよて付夏
くうくまいり

才六 ぶら事

才七 まんきをいむバ

きり

才八 さうらんびやく
の幸

才九 ようしや楽吉
才十 人しくふくく
ちねんそくつら
幸一それども大人善
人ゆけちうげく
りつせいそくす
せすふととり乃ごと
くまらとめいあん
りふなり

けいこまをきり

一 ものをかきさん
目さくいしや
里やう里やうちや
うへて
一 じんちやうそさの
見小すくさうつけ
人の志あやくし
くハ
一 くりそめよあひ
てよ紀ハあよたひ

あふくよの華一を人
すーふらんをー

うとくあらんを物

とをるうふをーあり

てあー幾さぬす人の

みり

このえあらんを

せうきあん里らん

あんをけらん用ー

ふるん又てうまをう

じきの人

あくふくしね志のあ

一 ちのゆくまといんてふ

かんでひあ孫しそひ

所こみ志あんのわう

しやままりん

一 ずいふしそそのあり

がくのさーでえら所

いあやうあてちまん

をる人

一 というん里よ大さけ

をえちささうくぶそゆ

だじーーゆひくさい
きんくまそらごと
きんくまそらごと

一ちぬいふおとけ
うう不うげたれおさ
ねうら見いこうおど
もふし

一ちぬいふおとけ
るともものか守まこ
へをくぬら流中の

目録さよー

一何るりそめおらん変

張初んとせよきくね
海東一ハク目録也

一ひくくろりそめぐまそ
あまのりーこりかま
んきのあまのりそを
たねりり

一何るきり二とけりー
とてらくすろあー
きよりてきあくさむ
ハク

一う羨ふとハゆめと托
まひてわうふうう忘
ま癖そのらハこちを
もうりよ

一ひんのくせうとまの
人とまうふくれが
こりふこそうつけ
らまれ

一ふ紀しとを以てわ
るうく思ふまをあつ
あのきれそふゆのさ

むさよ

一いの里をまくとわう
ハさうすゝるまを
まうあんバはを以て
すゝらゝまめ

一こいをせとうと
よむまめとやあま
まんもうとせふとだ
しゝまめ

とくく根をわと縁と
あんまんのか守る

すあき悔しき心身也
あつむ縁代しくく
ふんへの心を

うごにいまく

一縁さめりてあすの
まう身と志あんせよ
のさほく事一代わむ
一しほすま

のちとりひてたうあふ
ふのさほけましそほ
けねしーてのそんま

くらまら

一りさほく小月とた
あまをくくまいあを
めり事一乃うこくひ
あ節

あくの神十人娘子

くくまをそ太良尺縁りら
わさあまに二良縁あつよ
さんゆう三良うのちす
うらぬのは良い志し
又しやう又病を儀中す

を志やく六良たぬり
ありわひ七良じ絲やま
志んしやく八良寸志若
相こら八九良あけし
ろろそそ十良寸志尺
右十人へまのこ一白
入相と度わまる程り
めりうさう相をそふそ
くそつ一舟一機あうふ
女ららひ徳會合ちやう
志しそそしき相をうり

てりしきそのどかます
して根をいあうとれそ
へあう根そもや片うふ
そりの

ひん不祿十人の子

- 一 太良
- 二 良大良
- 三 良二良
- 四 良三良
- 五 良四良
- 六 良六良

大穴たき乃 七良二節
見物あのみ見 八良三節
わちまひ口 九良大良
あゆまのの 十良四良

右十人へまのこはる

才一 公るすくるき

事

才二 人しとふそら也

くそく仕るきま

才三 せ小あやうふ仕

へき事

才四 入物をりくめす

いねまのをく

いおくるきる

才五 たれりてて

かまの里人お

めらるへき事

才六 物こ兜小口入い

たてへき事

才七 志よふいきあり

十 志だひてある

八 物事一をらんた

六 うあさいとたえ

ふへきる

九 且りそんを

仕へき事

十 こうお代乃そむ

へき事

石象こころ且良ハ

名字にきすき彦く

まーきその也

又ひんが神のい且く

うとくるる人乃内必と

ひんありう後世のらん

きととあうすらをとと

あうまふ孫ん万孫じい

のらひううるんとたを

ひうくふくくして人小

はらくあうとわさけら

まをのうわさゆふを

まをんよさうううの志

るをううひあまのふす

まどき物とする心く
お解しこ進らへうとく
のひむとりのふまのあり
又ひむらう人がうらま
えうとくとつおるま
あり且門々又十年六十
年一のりんくまのうら
まとまといまう人そのう
らうせうふてうのさ
ひなれたこそいあ
のひりー門おいま入

いさをまきさうらをか
ま事一紙ありて人中
なさけをうけ人の物
もむさかちをわひく
とえうらまうひんま
連とまうとくれひと
りおるまなり
又ひむらう内中もらく
お解し
一さいやうとのさ
えぬまうあふ

卯

一 敵とあひさうれとせう
一 まうよあふりう
一 金銀をもあさうれい志
一 やうもいひ言下小付
一 さけくひる
一 こそえくたの志えお
一 知いとすいふんり不
一 て人ふりうりせれえ又
一 人のひひげりさうれい
一 わく女がせんしやあり

まこといこはしき乃うん
一 一と云物なりとそ
一 中げりまししうらんか
一 やうとさ人さうそ極凶
一 だも志ろき事一かそ
一 且とらん何小はけて
一 うの初一さよそ進食
一 去火小入て走そんせ
一 角に入てもくちすい
一 くひうりすす物みれ
一 いくまたやまらや川

まゆみの三人此金書と
くくくふんへて
一ふん一ふんうそえた
乃そが小治ふへり
す乞長老教のふ也

右ゆしやゆんの開板

ふんふい何年

知

七月吉日



